



パレスチナに育てられた娘
 パレスチナ巡礼③

「ナクバ」という言にユダヤ人の国、イスラエルをご存知だろうか。ラエルが誕生した。そのナチスドイツによるユダヤ人の大虐殺「ホロコースト」。この言葉を知らずにいる人は多いが、は祖国を失う。「ナクバ」を知る人は少ないと思う。

第二次世界大戦後の一九四八年、パレスチナという地名が地図から消えた。そしてそこ



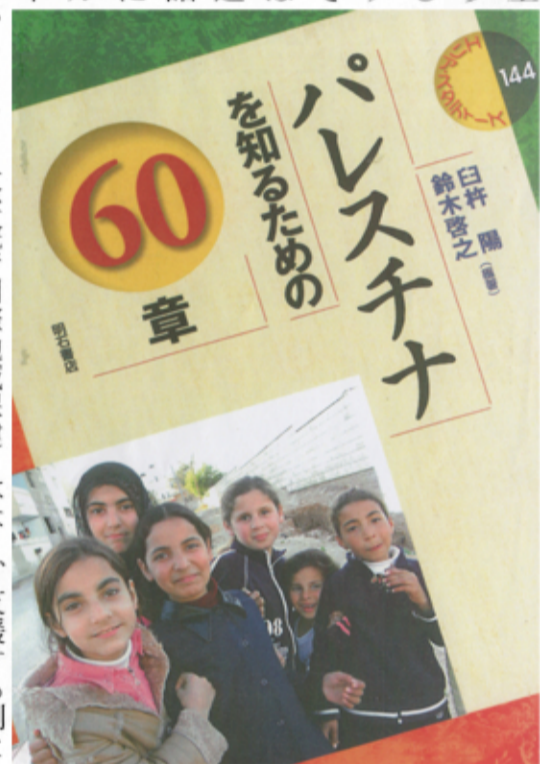
娘は10年間現地で
 母子保健プロジェクトに取り組む

国連も加

担して誕生したイスラエルに対し、パレスチナ人が黙っていた訳ではない。周辺のアラブ諸国とともに

イスラエルと戦った中東戦争。しかしイスラエルが勝利し、五百万人近くのパレスチナ人は難民となった。

それから約半世紀後の一九九三年、PLO(パレスチナ解放戦線)とイスラエルのオスロで



発刊されたパレスチナに関する本

大学院で国際地域保健学を学ぶために帰国した。そして博士課程の時、今度はJVC(日本国際ボランティアセンター)のパレスチナ担当として三年間、現地に住む。延べ十年間、住んで支援活動をし、

ガザ地区が「パレスチナ自治区」となった。これでパレスチナ紛争は解決に向かうと世界は安堵し、各国のNGOはパレスチナ難民救済に動き始めた。

一九九五年、日本のNGO「地論文のテーマ」占領地「平和」もパレスチナの母子保健プロジェクトでスタッフを派遣した。娘はその一員として七年間、現地で活動した。しかし紛争は根本的解決には至らず、二〇〇二年に東大

ガザ地区が「パレスチナ自治区」となった。これでパレスチナ紛争は解決に向かうと世界は安堵し、各国のNGOはパレスチナ難民救済に動き始めた。一九九五年、日本のNGO「地論文のテーマ」占領地「平和」もパレスチナの母子保健プロジェクトでスタッフを派遣した。娘はその一員として七年間、現地で活動した。しかし紛争は根本的解決には至らず、二〇〇二年に東大